



特 許 願 (2)

昭和50年4月3日

① 日本国特許庁

公開特許公報

特許庁長官 齋 藤 英 雄 殿

1. 発明の名称 ガラス繊維強化セメント板の製造方法

2. 発明者

住 所 大阪府藤井寺市梅ヶ園町2番11号

氏 名 寺 本 博

3. 特許出願人

住 所 大阪市浪速区船出町2丁目22番地

名 称 (105) 久保田鉄工株式会社

代表者 代表取締役社長 廣 慶太郎

4. 代 理 人 〒662

住 所 兵庫県西宮市門戸莊15番11号

氏 名 (5906) 弁理士 清 水 実

5. 添附書類の目録

- | | | |
|-----------|---|---|
| (1) 明 細 書 | 1 | 通 |
| (2) 図 面 | 1 | 通 |
| (3) 補 正 書 | 1 | 通 |
| (4) 発 明 書 | 1 | 通 |

方 密

50 041055

明 細 書

1. 発明の名称 ガラス繊維強化セメント板の製造方法

2. 特許請求の範囲

走行中のベルトコンベア上にガラス繊維とセメントとの混合物を層状に堆積し、ベルトの表面、またはガラス繊維セメント混合物層の表面、或いは又又方に、 Be^{2+} , Al^{3+} , Zn^{2+} , Ti^{4+} , Zr^{4+} , Th^{4+} 等のイオンを含む水溶液を散布して、ガラス繊維セメント混合物層を湿潤させ、この湿潤ガラス繊維セメント混合物層を上記ベルトコンベアでロールにより圧縮し、かくして得られた原板を養生、硬化することを特徴とするガラス繊維強化セメント板の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、ガラス繊維強化セメント板の製造方法に関するものである。

セメントの機械的強度、特に引張り強度を上させるために、セメントに繊維補強材を混合することがある。

⑪特開昭 51 115523

⑬公開日 昭51. (1976) 10. 12

⑫特願昭 50-41055

⑭出願日 昭50. (1975) 4. 3

審査請求 未請求 (全4頁)

庁内整理番号

72/1 47

6030 41

735/ 41

⑫日本分類

22 C42

22(3)C11

22(3)D14

⑫ Int. Cl²

B28B 1/52

C04B 13/00

C04B 15/00

C04B 31/04

この繊維補強セメント成形体として、汎用されているものには、石綿セメント板があり、この石綿セメント板は、例えば、石綿を開毛機で開毛し、この開毛石綿とセメントとをドライミキサーにより混合し、この混合物を層状に形成し、これを水で湿潤後、加圧して生原板を得、この生原板を養生により硬化させる方法で製造されている。

しかしながら、ガラス繊維の耐引張強度は、石綿繊維の耐引張強度に較べて一段と大であり、石綿繊維の代りに、ガラス繊維をセメントの補強材に使用し得れば、補強繊維の配合量を少なくし得、板厚さを薄くすることが可能となる。

従来、ガラス繊維は、ガラス繊維強化ポリエステル樹脂体に使用されており、繊維径を細くするほど引張強さが増大することから、2~12μ程度のものが実用されている。5μ並びに12μのガラス繊維の引張り強度は約300Kg/㎠並びに100Kg/㎠であり石綿の引張り強度数Kg/㎠に較べて極めて大である。